

ことばを育てるかかわり方

2022年10月21日（金）10:00～11:30

板橋区子ども発達支援センター

言語聴覚士

今日の流れ

- ・ことばの発達（コミュニケーション・言語発達段階の視点で）
- ・ことばを育てるかかわり
- ・ことばに必要なこと

発達には個人差があります

ことばの発達

コミュニケーションの視点から

生理的欲求（0か月）

泣く



養育者との関わりを通じたコミュニケーション（0歳～）

二項関係（自分一人 自分一物）→三項関係（物を介して人と関わる 人を介して物と関わる）



自我の芽生え・自己主張（1歳後半～2歳）

他者の行為を真似たふり遊び



並行遊び（3歳）

同年代の他の子と場を共有



集団生活における他者との相互交渉（4歳～）

相手の気持ちが分かる

ことばの発達

言語発達段階の視点から

前言語期（0～1歳）

2か月 クーイング

4～6か月頃 喃語

過渡的喃語→基準的喃語→ジャルゴン（宇宙語）

6ヶ月頃 身振りの理解

◇指さし

理解

指した指を見る

指さした方向を見る

指し示されて方向を見、かつ人を見る

表出

手さし

対象の指さし：発声を伴った共感的指さし

叙述・要求の指さし

ことばの発達

言語発達段階の視点から

語彙獲得期（1～2歳）

初語の出現

1つの語が多くのもを指し示す[般用または過拡張的用法]

例えば…「わんわん」→「犬」だけではなく、「4本足全てのもの」を「わんわん」と言う

1歳6か月頃～ 爆発的に語彙が増加する時期→2語発話の出現

応答の指さし

ことばの発達

言語発達段階の視点から

幼児期前期（2～4歳）

いくつかの語彙を組み合わせて、2語文・3語文へ

大小、長短などの相対的な関係を表す語彙

上下、前後などの位置を表す語彙

ことばの発達

言語発達段階の視点から

幼児期後期（4歳～6歳）

◇語彙・構文の発達

語彙 3歳までに約1000語、4歳までに約1500語、5歳までに約2400語、6歳までに約3000語

名詞・動詞・形容詞・副詞など

事物のカテゴリーや上位概念を表す語彙の理解

構文 「なに」「どこ」「いつ」「どう」「なぜ」を用いた疑問文

文末の表現により、肯定・否定・時制など、助動詞を使って推量・可能などの表現ができる

◇談話能力の発達

会話

語り

◇音韻意識の発達→文字の習得

遊びながら覚える（しりとり・グリコじゃんけん・さかさことば・ひらがな積木・文字の絵本など）

ことばを育てるかかわり

- お話しするために必要な力
- 「話しかけてあげて」と言われるけど…
- どんな遊びが好き？

お話しするために必要な力

- ・ 聴力
- ・ 言語理解
- ・ 対人関係
- ・ 発声
- ・ 模倣

「話しかけてあげて」と言われるけど…

どんなとき？ どんなふうに？

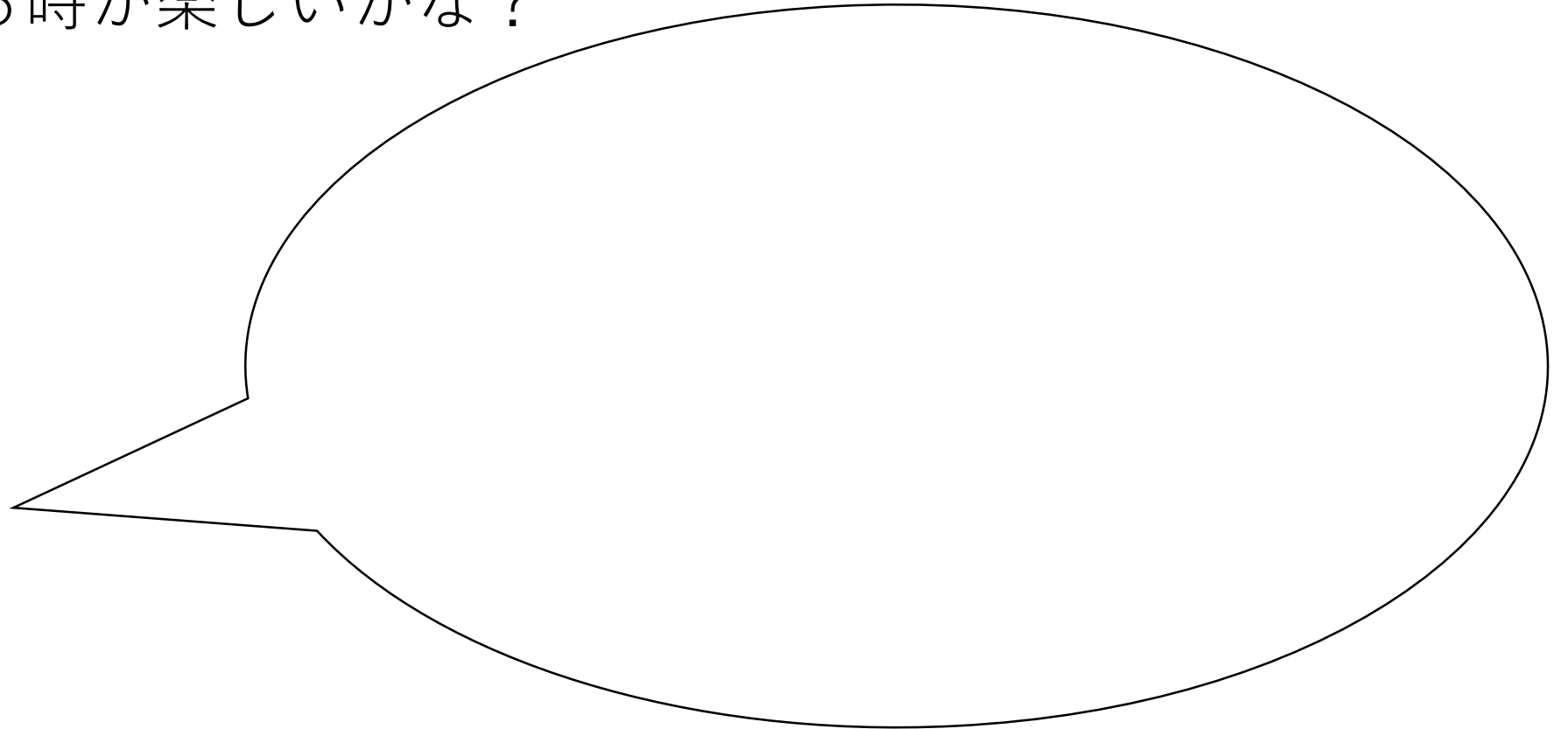
どんなとき？

- ・遊びや生活の中で自然に声かけをしていることを子どもに合わせて
- ・子どもの興味のあること

どんなふうに？

- にこやかに
- 子どもの気持ちや行動をことばにして
- 「だめ」「やめなさい」ではなく別の言い方で

どんな遊びが好きかな？
何をしている時が楽しいかな？



ことばに必要なこと



参考文献

「1・2・3歳 ことばの遅い子 ことばを育てる暮らしの中のヒント」

中川信子 著 ぶどう社

「健診とことばの相談 1歳6か月健診と3歳児健診を中心に」

中川信子 著 ぶどう社

「ことばをはぐくむ 発達に遅れのある子どもたちのために」

中川信子 著 ぶどう社

「言語聴覚士テキスト」 廣瀬肇 医歯薬出版株式会社

「標準言語聴覚障害学 言語発達障害学」シリーズ

監修 藤田郁代 編集 玉井ふみ/深浦順一 医学書院

「言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学」 編集 今泉敏 医学書院

「コミュニケーションの発達と指導プログラム～発達に遅れをもつ乳幼児のために～」

長崎勤・小野里美帆 著 日本文化科学社